

第 1 回サマーセミナー

会議報告

「音響学の基礎と最近のトピックス」*

山崎芳男 (早稲田大学理工学総合研究センター)**

大屋正晴 (リオン(株))***・中沢宗康 (大阪大学)****

音響学会の事業委員会では9月6日(日)~8日(火)の3日間長野県白馬村のシエラリゾート白馬においてサマーセミナー「音響学の基礎と最近のトピックス」を開催した。

春先に小畑事業委員長、上羽会長から毎年幾つかの研究室が集まって行っていた夏合宿を音響学会のサマーセミナーとして企画できないかのご相談を受けた。当初は来年からの実施を考えていたが、音響教育調査委員会(子安勝委員長)が発足し、米沢での秋季研究発表会において音響教育のスペシャルセッションも開催されることでもあり、準備期間に短いものの試験的に今年から実施しようということになった。

講師には主旨をご理解いただきボランティアで参加いただける先生方をできるだけ広い分野からお願いした。その結果丁度来日中のミュンヘン工科大学のH. Fastl教授を含め同時期に研究会の「夏期セミナー」が計画されていた音楽音響を除くほぼ全分野の先生方にお引き受けいただいた。

告知も学会誌7,8月号とホームページでしか行えなかったが、80名(内学生53名)の受講者があった。

プログラムは以下のとおりである。

第1日目(9月6日)は午後1時に現地集合し、2時から上羽貞行(東工大)「超音波の概論と最近のトピックス」、4時からは聴覚関連で森本政之(神戸大)「空間音響と聴覚実験」、鈴木陽一(東北大)「三次元音空間知覚の制御」、夕食後7時から

東山三樹夫(工学院大)「信号処理と室内音響の基礎」の講義が行われた。

第2日目(9月7日)は9時から橘 秀樹(東大)「ホールの音響効果の予測」、10時半から心理音響関連のH. Fastl(ミュンヘン工科大学)「The Psychoacoustics of Sound - Quality Evaluation」と桑野園子(大阪大)「室内に住む - 音環境アメニティー」の講義があった。午後は近くのグラウンドで運動(ソフトボール, テニス)を行った。夕食後7時から子安勝音響教育調査委員会委員長から「音響教育について」お話があり、三井田淳郎「マルチメディアによる音響工学」と柳川博文両氏から千葉工大における音響教育の実例の紹介があった。引き続き講師を囲んでなごやかな懇親会が開かれた。

第3日(9月8日)は9時から大川茂樹(千葉工大)「音声研究の基礎と最近のトピックス」、10時半から浜田晴夫(東京電機大)「電気音響分野 - デジタル処理と電気音響」、山崎芳男(早大理工総研・千葉工大)「人の優れた感性に学ぶ信号処理」のデモンストレーションを使った講義があった。デモンストレーションで使った音の一部は学会のホームページで聞くことができるようリンクが張られている。

前述のとおり準備期間が短く無理を承知の開催ではあったが、第1回目として十分その目的を果たしたといえよう。同一の宿に泊ったセミナーは参加費用、宿、食事、講義内容を含め概ね好評であったようだ。来年以降もぜひ続けていきたい。

今後、考慮すべき点としては開催時期の問題である。対象を、音響を志す学生とすればもう少し早い夏休みの初めあたりが良いのではないか。また、大変盛りだくさんの講義であったがサマーセミナーとしては受講者が発言するあるいは受講者同士の討論の時間を設けたい。

* The First ASJ Summer Seminar "Fundamentals of Acoustics and Current Topics."

** Yoshio Yamasaki (Waseda University, Tokyo, 169-0072)

*** Masaharu Ohya (Acoustic Engineering Department, RION Co., Ltd., Kokubunji, 185-8533)

**** Toshiyasu Nakazawa (Graduate School of Human Sciences, Osaka University, Suita, 565-0871)

末筆ながらお忙しいなかボランティアで参加いただいた講師の先生方,熱心な受講者方,準備や当日の運営にご尽力いただいた学会事務局,学生

諸君,破格の条件で会場を提供いただいたシエラリゾート白馬の関係各位に深謝する。

(山崎芳男)

第1回サマーセミナーに参加して

私は音響計測器の開発設計に携わっていますが,音響学についての体系的な知識はありませんでした。しかし,今後この業務に関わっていくうえで,その概要については知っておきたいと思い,サマーセミナーへの参加をさせていただくことにしました。

講義はどのテーマもその分野において現在活躍されている先生方が担当なさり,その分野の概要や最近のトピックス,研究成果の報告,そして今後勉強していくにあたっての指針などを分かりやすくお話ししてくださいました。そのおかげで現在研究されている音響学についての大まかな枠組みやその動向を知ることができました。また,自分がふだん業をしていることがある枠組みにおいてどのような位置づけにあるかを意識することはなかなかできないものですが,セミナー参加を通じて私にとっては計測器が音響学を支えるにあたっての在り方を自分なりに確認することができたような気がします。

今回,社会人の方の参加は10名ほどでした。「音響教育」のお話の中で子安先生は音響教育の特殊性として,音響学の勉強を企業に入ってからその必要性のために始める人が少なくないことを挙げておられ,学会としてもそのような人に対するの教育に取り組んでいく必要があることを述べていらっしゃいました。企業に入ってから音響に接するようになった私は正にその該当者であり,今回のセミナーは初歩の音響教育としては最適でした。また,運動や懇親会を通じていろいろな方と交流を深める時間がもてたことはとても貴重なことでした。もっと多くの社会人の方が参加されてもよいのではと思います。

最後になりますが,今回のセミナーの実行委員長を勤められた山崎先生はじめ講義をして下さいました諸先生方,また準備や手伝いをなされた学生,学会関係者の方に心よりお礼申し上げます。

(大屋正晴)

9/6から9/8まで,白馬でサマーセミナーが行われた。終わったところでの感想は「疲れた」。たった3日で音響学全般の話をするということで,結構なスケジュール。1時間30分と2時間の講義を計8回で13時間。良く言えば高密度だが,私はその密度に参った。講義の内容は講師の方々それぞれ特色があって,基本的な話をみっちりする人もいれば,専門的な話を分かり易く説明する人もいれば,話が脇道にそれて楽しませてくれる人までと多岐に渡った。これだけの講師をそろえたセミナーもないものと思うが,理解に手間取ってしまう専門外の話と,先に述べたハードスケジュールで私を含めて講義中は舟を漕ぐ人もちらほらと。しかし,実際はPower Pointを巧みに使用されたりして,比較的理解し易いような講義だったと思う。

もっとも,頭の中に残っている記憶といえは,2晩続けて開かれた懇親会と,2日目の昼の自由時間に遊んでいたことぐらいなものである。要するに,勉強以外の時間ばかりなのだが,終わってしまった今から考えると,講義の内容は3割ぐらいしか頭の中にとどまっていなかったりする。こんなことを書いては講師の皆様には失礼だろうが,講義よりは他分野,他大学の人との出会いの方が刺激が大きかったし,印象に残っている。

今回のセミナーに参加して,音響分野の領域の広さを随分と感じている。また,専門外の分野に対する意識を刺激するところも大きかった。今現在,学際的な研究が重視される時代でもあるし,なかなか他分野の人間と交流する機会がないので,こういった総合的なセミナーを開いてくれると,学生としてはありがたい限りである。このセミナーで得たことが,今後に生かすことができれば幸いである。

(中沢宗康)